

平成 28 年度星槎大学 入学式

学 長 告 辞



はじめに、黙禱を行わせていただきましたが、14 日の夜以降発生している熊本県を中心とした地震により亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。

ご遺族に対して心からお悔やみを申し上げますとともに、今なおその被害に苦しんでいらっしゃる被災者の方々に対して心からお見舞いを申し上げます。

この後天候もすぐれぬように変わると聞いておりますが、お心を強く持って乗り切っていただきたいと思いません。

入学生の皆様、星槎へのご入学を歓迎申し上げます。ようこそ、星槎へ。

ご家族ご関係者の皆様、学生の学びをぜひお支えください。

また公私ともに大変ご多用な中、お運びいただきましたご来賓の皆様方、いつも本学にご理解ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本日お迎えいたします新入生は、学部 1447 名、大学院修士課程 32 名、計 1489 名でございます。既に昨年の 10 月生として入学し、学びを始めている方もいらっしゃいます。

本学の入学生は全都道府県にいらっしゃいます。本日も各会場をテレビ会議で結び、入学式を執り行っていますが、九州地区の状況に鑑み、福岡式場については本日の挙行を中止させていただいておりますことをご報告申し上げます。

さて、本学は共生科学部共生科学科という 1 学部 1 学科の大学です。また本学大学院教育学研究科はその共生科学を礎とした教育学専攻です。

共生科学は世に多々ある専門的な領域を共に生きる「共生」というキーワードを軸に、横断的に捉え直そうという試みです。

一つひとつの専門性は大切なものですが、その専門性の全体の中における意味を見つめ直すことで、ともすれば忘れがちになる本来の科学の目的を取り戻し、世の事象を理解するための機知を得る営みともいえます。

皆様が星槎大学に入学されたきっかけは様々だと拝察します。

星槎大学は学齢期とは学修に適した若い時期というものではなく、学びたいと思った時がそれぞれの「学修適齢期」であると考え、その一步を踏み出すお志には、それが何歳であれ敬意をもってお答えしたいと考えます。また学歴とは若き時にどの学校で学んだかという「学校歴」というよりは、何を何のために学んだかという「学修歴」と考え、一生更新し続けるべきものと考えます。その上でお話をします。

ぜひスタートを切るきっかけとなった分野を飛び出る「遊び心」をお持ちいただきたい。

海外留学ならぬ「学内遊学」とでも申しましょうか。核となる分野を飛び出て共生科学の全体を味わっていただきたい。心からそう思います。

例えば教育に関わる方、教育を中心に教員免許やその他の資格取得を目指される方が他の分野も積極的に顔を出してみるということをやってみてください。

こどもたちが生きて行く世界は確実に私たちが生きてきた社会とは異なります。ですから、私たちはずっと学び続ける必要があります。教科や指導に関わる内容に加え、心理や発達に関する知識は当然のことながら、こどもたちに教科を通じて伝えていく社会の現状とこれから、そしてどのような社会を目指していくのかを伝えていく必要があります。

なぜこどもたちを巻きこむ犯罪が後を絶たないのか。

なぜ生命の生活環境を修復不可能なほどまでに破壊をすることができてしまうのか。

なぜテロリズムは無くならないのか。

なぜ多くの食料を廃棄する一方で飢餓で、毎日把握できているだけで 25,000 人も人間が亡くなっているのか。

こうしたことを各教科や活動の中で共に考えていくことも大切です。

特に 18 歳の参政権が認められた現在、安易にポピュリズムに流されない、選択する眼をこどもたちが早期に培っていく必要性も高まっています。

また環境を中心に学ぶ方、福祉を中心に学ぶ方、国際関係を中心に学ぶ方も同様に、他領域を学ぶことで、改めてご自身が専門に学ぶ領域の位置を確認することにも繋がっていきます。相互の関連性が今まで以上に深く複雑に絡まっている社会に私たちは生きています。ある分野が単独で存在している世界など実社会にはありません。

他分野を横断的に学ぶこと。

これは学部であれ、大学院であれ、本学が望むところであります。

我々の学問は何のためにあるのか、

科学は何のためにあるのか、

専門性とは何なのか。

それは人間を中心とした広い意味での生命に対して、その繋がりに対する叡智を得るということだと考えます。

繋がりにには過去現在未来という繋がりもあるでしょうし、今現在どのような繋がりで見ているかという繋がりもあります。

我々はどうやって 40 億年の命をつないできたのか。

我々は今後、どのように命をつないでいくことができるのか。

また、隣に住む人とどのように関わりを持っていくのか。

隣国とどのように関わりを持っていくのか。

困難を抱える人にどのように寄り添い、支え支えられをしていくのか。

異なる宗教や思想とどのように関わりを持っていくのか。

多様な生命のバランスにどのように生かされているのか。

我々の心はどうやってあることが必要なのか。

個人であれ、派閥であれ、国家であれ、宗教であれ、それぞれが強烈に自己を主張し、他に無関心、場合によっては嫌悪を表明する時代の中で私たちに何が出来るのか。

その大いなる挑戦として共生科学があります。

星槎大学のシステムは、その多様な長期にわたる学びをサポートするための最適化を、心がけています。

学ぶ分に合った授業料システム、在学期間を設定しないこと、他の大学の 1 学科の開設講座の数倍も 1 学科内に開講し、あらゆる領域を横断的に履修可能とすること、などが本学の特徴です。それらはすべて共に生きることを追求していこうという星槎大学から皆様に対する提案です。

一生の間、大学生として学べる大学があったって良いではないですか。

星槎大学の入学生は高校を出たばかりの方、

すでに大学を出て社会で働きながら学ぶ方、

他の大学で教鞭を執っておられる方、

退職後に生きる意味を深めたいという方、

子育てに少し悩みを持たれた方という方、

行政に関わっている方なので勉強が必要という方、

何らかの事情で高校を卒業できずに大学を諦めていたが、改めて本学特修生から正科生として入学された方など、本当に様々です。

そのような方が一つのテーマを軸にお互いに触発しながら学びをする。そして自分がこの社会に存在する意味、役割を認識し、必要な存在として高め合う。結果、皆様の学びが共に生きるという観点から社会を変えていく。

そのような大学と一緒に創っていこうではありませんか。

星槎大学は星槎グループという志を一にする人間の集まりの中の一つの学び舎です。この集まりの中に現在0歳から90歳を超える方までが様々な形で参画をいただいております。

星槎の創設者は宮澤保夫先生です。星槎大学では星槎学という基幹となる科目で講義をいただいております。結びに、その宮澤保夫先生が星槎の理念としてお話になられた星槎の3つの約束について紹介をいたします。

人を認める

人を排除しない

仲間を作る

この一見、シンプルに見える、しかしながら実践するに難しい3つの約束を大切なものとして心に抱き、自分がこの世界に生まれてきた意味や果たす役割を大切に、そして丁寧に考えながら、共に生きることを科学していく仲間。

それが星槎大学です。

本日は誠にありがとうございます。

共に学び、実践してまいりましょう。

星槎へようこそ。

平成28年4月16日

星槎大学学長

井上 一